

主食用米の事前契約（播種前契約）の状況

- 5年産の仕入計画数量に占める播種前契約（複数年契約を含む）の割合は32%。
- 5年産の仕入計画数量に占める実需者と結びついた播種前契約の割合は4%。

○ 播種前契約の状況

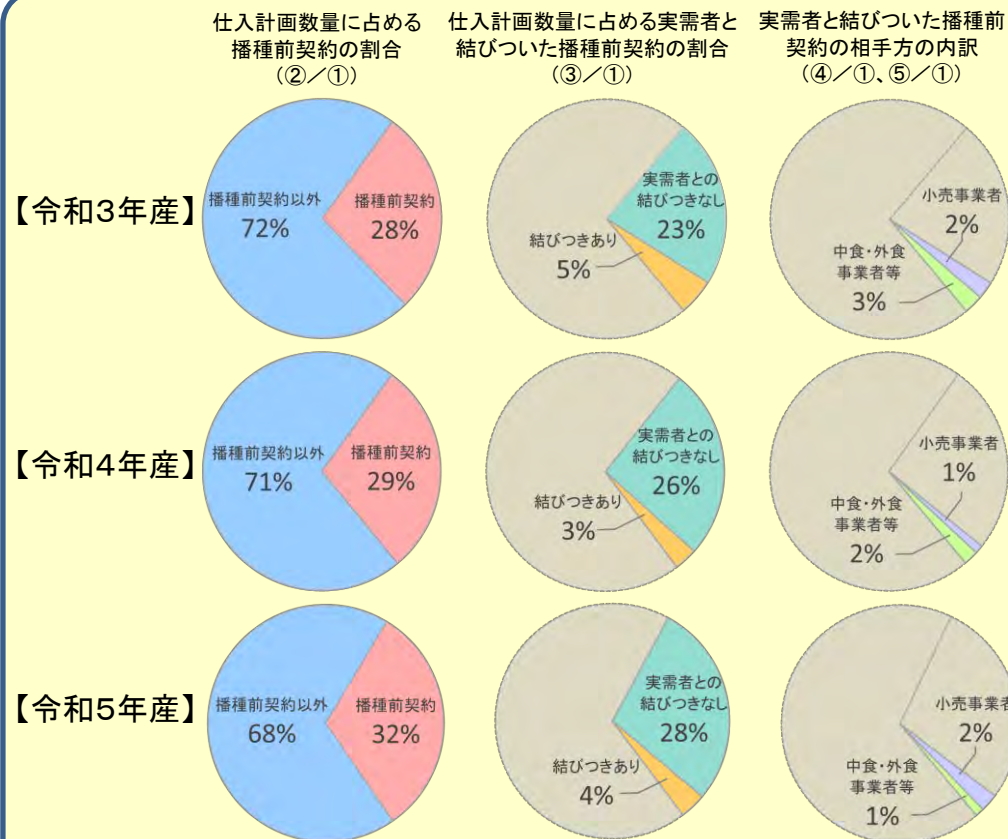
（単位：千トン）

年産	仕入計画数量 ①	播種前契約数量 ②	うち実需者との結びつき		
			計 ③	中食・外食等 ④	小売 ⑤
3年産	3,699	1,026 (28%)	184 (5%)	95 (3%)	89 (2%)
4年産	3,451	1,001 (29%)	108 (3%)	69 (2%)	40 (1%)
5年産	3,504	1,115 (32%)	127 (4%)	42 (1%)	85 (2%)

○ 播種前契約の履行状況

令和4年産の播種前契約数量に占める販売数量（令和5年3月時点）の割合は97%

○ 播種前契約の比率



注1：調査対象は、年間取扱数量500トン以上の集出荷業者。

注2：仕入計画数量は、卸売業者や小売事業者等へ独自に販売を行う米穀の生産年の3月末時点の仕入（集荷）計画数量（見込含む）として調査。

注3：播種前契約数量は、生産年の3月末までに締結した事前契約（確認書等により販売数量が決定しているもの）の数量をいう。

注4：中食・外食等には、小売以外の実需者（学校給食や事業所給食など）との契約を含む。

注5：各値は速報値である。

注6：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

需要に応じた販売について（低価格帯の需要への生産・販売の拡大）

【買い手の意向と産地の意向のミスマッチ】

用途に応じた米
生産が重要！

買い手の意向

一般家庭用
(高価格帯中心)
70%程度

中食・外食向け
(低価格帯中心)
30%程度

少しでも単価の高
い米を売りたい！

産地の意向

一般家庭用

需要に応じた
生産・販売へ

中食・外食向け

- 主食用米全体の需給は均衡している中、産地においては高価格帯中心の一般家庭用の米を生産する意向が強い。
- 一方、買い手においては、3割を占める低価格帯中心の中食・外食向けなどにも対応した米生産へのニーズがありここにミスマッチが生じている状況。



- 一般家庭用、中食・外食向け各々の需要に応じた生産・販売の取組を進める必要。

（それを行わない場合には、結局、国内主食用米需要全体の一層の減少につながる。）

－取組事例（A市B生産法人）－

- ・ A市はブランド米の産地であるが、B生産法人は中食・外食事業者からのニーズを受け、28年産から多収品種（あきだわら）の作付を開始。
- ・ 一般家庭用より3割多収を実現し、一般家庭用で得られる収入とほぼ同等の収入を確保。